

平成30年度事務事業評価シート(29年度実績)

◎基本情報

事務事業名	鳴門市体育協会運営支援事業		担当部署	市民環境部 スポーツ課		
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市体育振興事業補助金交付要綱		
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業 期間	開始	平成	5年度
政策(中項目)	4	生きがいあふれるまち なんと			終期	未定
(小項目)		スポーツ・レクリエーション				
施策	3	生涯スポーツの振興				
基本事業	2	スポーツ活動の推進				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市体育協会						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	鳴門市体育協会が継続的に運営できるように支援を行うことで、各競技団体の活動を推進する。						
事業計画	29年度に何を計画していたか	生涯スポーツ及び競技スポーツを推進するために、各競技団体において市民体育祭をはじめとする大会を開催する。世界選手権大会、国民体育大会などのスポーツ大会へ参加する者に対して、出場補助金を支出する。毎年表彰式を行い、スポーツ活動に貢献した者、スポーツ大会で優秀な成績を残した者の功績を称え、スポーツに対する意欲を喚起し、スポーツ振興を図る。体育協会への補助金については、支援目的を明確にすることで、加盟団体の普及活動や競技力向上の取り組みを促進する。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	単位
		全国大会等出場回数	20	20	20	20	20	回

◎実施結果(DO)

事業実施内容	29年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	各競技団体において市民体育祭をはじめとする大会等を開催。世界選手権大会・国民体育大会等のスポーツ大会へ出場する者に対し、出場補助金を支出。1月末に表彰式を行い、体育・スポーツに貢献した者、スポーツ大会で優秀な成績を残した者の功績を称え、スポーツに対する意欲を喚起し、スポーツ振興を図った。助成制度の実施により、各団体の普及活動や競技力向上の取り組みを促進することができた。						
事業実施手法		<input type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		28年度実績	29年度実績	30年度目標	31年度目標	32年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	体育協会加盟競技者数	6,646	6,488	7,300	7,300	7,300	人
	2							
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	全国大会等出場回数		27	34	-	-	-	回
	目標達成率(実績/目標)			170.0	-	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり		事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成29年度	当初予算額	0	0	0	0	1,245	1,245
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	1,245	1,245
		決算額	0	0	0	0	1,245	1,245
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(7,234千円/人)	臨時職員(2,492千円/人)		総人件費		総事業費
		0.2	0.0		1,447		2,692	

事業費推移	年度	28年度決算	29年度決算	30年度	31年度	32年度
	事業費	1,245	1,245	1,245	1,245	1,245
	うち一般財源	1,245	1,245	1,245	1,245	1,245
	人件費	1,427	1,447	1,447	1,447	1,447
	総事業費	2,672	2,692	2,692	2,692	2,692

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		国民体育大会等へ出場する者に対して、補助金を支出するとともに、表彰式を行いスポーツに対する意欲を喚起し、スポーツ振興を図った。
	効率性	B:概ね効率的だった		各競技団体の大会開催回数や、スポーツ振興に繋がる施策の実施状況に応じて、活動費の支出をするなど、効率的に行っている。
②成果に対する評価	指標名	全国大会等出場回数		各競技、さまざまな種目において全国大会に出場し、目標を達成することができた。
	目標	20	回	
	実績	34	回	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		各競技団体において市民体育祭をはじめとする大会を開催するなど様々な取り組みがなされた。また、各競技団体への助成を通じてスポーツ振興への支援を行った。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	平成27年度より新助成制度を導入し、大会の開催や学校への指導者派遣、生涯スポーツの推進等積極的な活動を行っている団体への補助を手厚くしている。今後も支援目的を明確にすることで、加盟団体の普及活動や競技力向上の取り組みの促進につながるよう、現状と課題を把握し、様々な課題について対応していく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H30年度	新助成制度を継続し、各競技団体の意見も聞きながら、より良い支援ができるよう検討していく。各競技団体の活動等をスポーツサイト(市公式ウェブサイト)で紹介し、宣伝啓発の支援をすることで、市民のスポーツに対する関心を高める。			
	H31年度	今年度の実施状況により、次年度以降検討する。			